

新富町春日遺跡採集の中世土師器について

本部 裕美

（宮崎県埋蔵文化財センター）

1 春日遺跡の概要と資料採集の経緯

今回紹介する中世土師器は、宮崎県児湯郡新富町に所在する春日遺跡の範囲にある道路沿いの土手上的の黒色土塊から、数年前に筆者により偶然採集されたものである。春日遺跡は、一ツ瀬川左岸の新田原台地の南西部に位置し、その範囲の西側は西都市と接している（図1）。一帯は戦前から開拓の手が入り、現在では酪農を中心とした畑地帯が広がっている。また、国指定史跡新田原古墳群の一群である祇園原古墳群の分布域と重なるとともに、付近に中世山城の有峯城も立地するなど、早くから歴史的に注目される地域であった。春日遺跡では、これまで道路建設等により8次にわたる発掘調査が行われてきた。その結果、旧石器から中世にいたる遺跡の存在が明らかとなり、春日地区のほぼ全域に遺跡が広がると判明している（新富町教育委員会 2007b）。

2 資料紹介

紹介する資料は、土師器坏である（図2、写真1・2）。胴部～底部が残存し、底部径は7.8cmを測る。内外面とも回転ナデが見られ、底部は回転糸切りである。外面は橙色（Hue7.5YR7/6）である。なお、内器面にのみ2次的に煤が付着していることから、灯明皿として使用された可能性が指摘される。この坏は器形や底径、底部切り離し技法からみて、堀田孝博による編年（堀田 2016）の第Ⅷ期に相当し、およそ13世紀後葉～14世紀頃のものといえる。

採集地点に隣接する有峯城は日向地誌に「建武ノ頃長友兵庫頭行安ト云者居リシ所ナリ」との記載がされ（若山 1995）、検討の余地は残るものの14世紀中頃までにはある程度の城構えが成立していたとされる（西都市 2015）。このことから、今回紹介した土師器もまた、有峯城との関係の中で残された可能性がある。

なお、本資料の保管等の取り扱いについては、今後、新富町教育委員会と調整予定である。

謝辞

本稿の執筆にあたり、桑村壮雄・樋渡将太郎・堀田孝博（敬称略、五十音順）の方々に資料調査等で大変お世話になりました。文末であります記して感謝を申し上げます。

引用・参考文献

西都市 2015「有峯城跡」『西都市史』資料編、332～333頁

新富町教育委員会 2007a『新富町の埋蔵文化財（改訂版）』新富町文化財調査報告書第46集

新富町教育委員会 2007b『春日遺跡8次』新富町文化財調査報告書第49集

堀田孝博 2016「宮崎平野部の中世土師器」『宮崎県央地域の考古資料に関する編年的研究Ⅱ 発表要旨』
宮崎考古学会、35～44頁

若山浩章 1995「有峯城関係資料について」『日向の城を読む No.1』宮崎県教育庁文化課、8～11頁

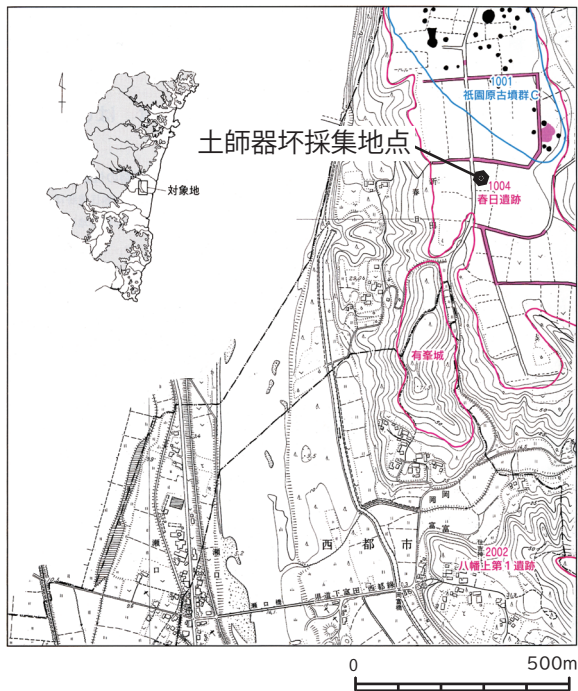


図1 資料採集地点と周辺の遺跡位置図
(新富町教育委員会 2007a より改変・転載)

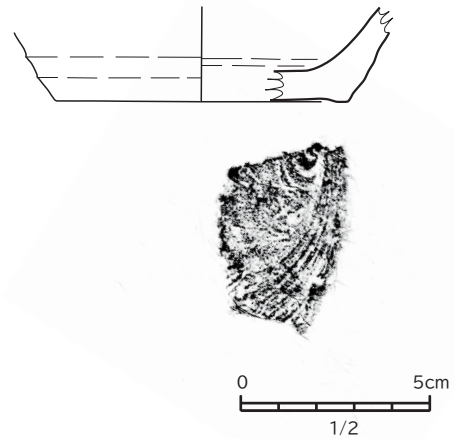


図2 春日遺跡採集土師器坏
実測図(復元)



写真1 春日遺跡採集土師器坏(内面)



写真2 春日遺跡採集土師器坏(底部)